

第6学年 社会科学習指導案

令和元年7月3日（水）第6校時 6年教室

指導者 教諭 西岡 茂昭

1 単元名 江戸幕府と政治の安定（東京書籍）

2 単元について

(1) 江戸時代の学習に入る前に、児童は、3人の武将と天下統一の学習で、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康がどのような政策を行い、天下を統一してきたのかを学習している。そして、この教材では、徳川家光を中心とした江戸幕府によって世の中を支配する仕組みが整えられ、参勤交代や手伝い普請などに代表される大名統制、江戸時代の身分制度と農民統制、キリスト教の禁止に伴う鎖国という3つの視点から捉えさせ、武士による政治が安定したことが学べる教材である。

この時期の6年生は、知的好奇心が旺盛で、新聞やテレビ、インターネットでのニュースなどにも関心を持っている。自主学習でも、本や図鑑で調べたことをまとめている。各種の情報をもとに課題解決をしようとする傾向も出てくるので、歴史的な事象について考察し、考えを深められる教材だと考える。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。

第6学年 第6单元
3人の武将と天下統一

第6学年 第7单元
江戸幕府と政治の安定

第6学年 第8单元
町人の文化と新しい学問

(3)の児童の実態に関する項目については、削除させていただいております。

(4) 指導にあたっては、次の事項に留意する。

○吹き出しなどの学習シートを活用しながら、大名の苦しさ、本音などを意欲的に考えられるような工夫を行う。

○資料から考えることが苦手な児童には、ペアやグループでの話し合いを行うことで自分なりの考え方が持てるようにする。

○資料は最低限必要なものを用意し、考えることがしやすくなるように支援する。

○お互いの意見を認め、アドバイスを伝えるような雰囲気づくりに努める。

○支援学級在籍の児童への支援（教科書や学習資料などへのルビ打ち）も行う。

○人権が尊重される授業づくりの視点

【自己存在感を持たせる支援】

導入では、家光の行った政策（年表）提示し、関所・参勤交代・手伝い普請などについて、自分がどのくらい知っているのか、知らないのかを確認し、学習に入っていきたい。また、知らないても大丈夫という安心感を持たせたい。

【共感的人間関係を育成する支援】

発表の仕方（丁寧な言葉遣い）、友だちの発表につなげる言葉、発表をきちんと聞く態度など、発表ができるような雰囲気作りをする。最後の政策の目的を考える、話し合いで、前時に学習したこともつなげながら、意見をお互いに出し合い、答えを導いてほしい。

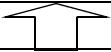
【自己選択・決定の場の設定】

学習の終末では、まとめを自分の言葉で考えたり、本時の学習について振り返りを書いたりすることで、歴史的な認識を自分のものとさせたい。

3 研究テーマとの関連

「よりよい関係を創造する生きる力を身に付けた児童の育成」

～自他の人権を尊重し合う教育活動の積み重ねによる学習主体の育成～



本学習で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」は、「複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能（技能的側面⑦力）で、目指す児童像は、「目的に応じて、確かに正しい情報を吟味・判断し、自分なりの考えを導き出すことができる。」である。

この学習では、前時で学んだ大名の配置が関係する。外様大名は、反乱のおそれがあるので、江戸よりも遠いところに置き、重要な場所には、信頼のおける大名を置く。参勤交代や手伝い普請などで財政を圧迫させる。そうすることで大名が江戸幕府に逆らえないような構図を作っていくのである。目指す児童像については、ここで学習することは、歴史上の出来事ではあるが、一面的な見方でなく、いろんな情報をもとに総合的に考えることができるようになってほしいと思う。これは、日頃の生活にもつながっていくことで、どんな事象にも複数の原因があると思う。それを、自分の思い込みやうわさなどで判断するのではなく、実際に自分の目で見たこと、聞いたことをもとに判断してほしいと思う。そのような行動ができるようになると、間違った情報に流されずに、正しい行動ができるようになると考える。

4 単元の目標

- 参勤交代などの大名統制や農民統制、鎖国政策とそれに関わる徳川家光の働きや代表的な文化遺産に関する心を持ち進んで調べようとしている。 [关心・意欲・態度]
- 参勤交代の制度や身分制度の確立、キリスト教の禁止と鎖国などの政策について調べたことを比較したり、関連づけたり、統合したりして、徳川家光の願いや働き、文化遺産の意味を考え、適切に言語などに表現している。 [思考・判断・表現]
- 文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、参勤交代や鎖国などの政策と、それに関わる徳川家光の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。 [観察・資料活用の技能]
- 徳川家光を中心とする江戸幕府によって世の中を支配する仕組みが整えられ、身分制度が確立して、武士による政治が安定したことが分かっている。 [知識・理解]

5 単元の評価規準

社会的事象への 关心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的な事象についての 知識・理解
①参勤交代などの大名統制や農民統制、鎖国政策とそれに関わる徳川家光の働きや代表的な文化遺産に関する心を持ち進んで調べようとしている。	①参勤交代の制度や身分制度の確立、キリスト教の禁止と鎖国などの政策について調べたことを比較したり、関連づけたり、統合したりして徳川家光の願いや働き、文化遺産の意味を考え、適切に言語などに表現している。	①文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、参勤交代や鎖国などの政策と、それに関わる徳川家光の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを白地図や年表、作品やノートにまとめている。	①徳川家光を中心とする江戸幕府によって世の中を支配する仕組みが整えられ、身分制度が確立して、武士による政治が安定したことが分かっている。

6 指導計画及び評価基準（5時間取扱い）評価基準及び評価方法

次	時	学習活動	指導上の留意点	関	思	技	知	
1	1	単元を通しての学習課題を考える。	親藩、譜代、外様といった大名が、江戸からみて、どのように配置されているのか考えさせる。	○				関心・意欲・態度① 家光を中心とした幕府の力の大きさに関心をもち、どのようにして力を強めたのか意欲的に調べようとしている。 (観察・ノート)
2	2 本時	幕府と大名の関係について考える。	江戸から遠く離れた外様大名は、参勤交代に日数がかかり費用も多くなったことに気づかせる。		○			技能① 徳川家光を中心とする江戸幕府がどのようにして力を強め、確かなものにしたのか必要な情報を参勤交代などの資料から読み取っている。 (観察・ノート)
3	3	百姓や町人をどのように支配していくかを調べる。	百姓の生活の心得は、確実に年貢を納めさせるために示されたことに気づかせる。		○			技能② 武士、百姓や町人などの身分の特徴や武士によって百姓や町人が支配されたことについて、ノートにまとめている。 (観察・ノート)
4	4	どのようにキリスト教を禁止していくのかを調べる。	鎖国の間も様々なかたちで外国との交流が行われていることに気づかせる。		○			技能③ 鎖国が完成するまでの歩みについて資料や教科書からしらべたことをノートにまとめている。 (観察・ノート)
5	5	これまで学習してきたことをまとめる。	今まで調べたことを整理するとともに、それぞれの政策により幕府の力がより強く確かなものになったことをおさえ、手紙を書かせる。			○		知識・理解① 徳川家光を中心とする江戸幕府の政治によって、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことがわかっている。 (観察・ノート)

7 本時の学習（2／5時間）

(1)目標 幕府がどのようにして大名を支配していったのかについて、参勤交代などと関連づけて考え、大名の力を弱めて支配を強めていったことを資料から読み取りノートなどに表現することができる。

(2)本時を通じて育てたい人権教育における資質・能力 (技能的側面⑦力)
複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

(3)めざす児童像

目的に応じて、確かに正しい情報を吟味・判断し、自分なりの考えを導き出すことができる。

(3) 展開

過程時間	学習活動	教師の発問T 予想される児童の反応C	指導上の留意点及び人権が尊重される授業づくりの視点	備考
つかむ7	<p>1. 前時の復習をする。</p> <p>2. 年表の確認をする。</p> <p>3. めあての確認をする</p>	<p>T : どうして、大名の配置をこのようにしたのですか。 C : 外様大名は、信じられないから。</p> <p>T : 関所って知っている人? C : 分かりません。 T : 参勤交代って知っている人? C : 知りません。 T : 手伝い普請って聞いたことある人? C : 分かりません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復習をして、前の時間の学習がどれだけ覚えているか、自分で認識する。 <p style="text-align: right;">自己存在感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳川家光の政策年表を見て、家光が行った政策に关心を持たせる。 ・図を見ての気づきなども少し出させ、自分と同じような気づきがあることを確かめる。 	<p>年表 関所の図 参勤交代の図 手伝い普請の図</p>
考え方 15	<p>4. 資料をもとに、目的を考える。(自分で考える)</p> <p>①資料から分かることを書く ②ペアで少し話し合い、考えを補充する。 ③分かったことを発表する。</p>	<p>T : 関所って何で作ったのでしょうか。 C : 人質だった大名の妻や子どもが江戸からにげないようにするためにです。 C : 鉄砲が入ってこないようになります。</p> <p>T : 参勤交代について、どんなことがわかりましたか。 C : 1年おきに江戸と自分の領地を行ったり来たりすることです。</p> <p>C : 加賀藩の場合は、二千人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら、作業がとまっている児童に資料のどこにあるか支援する。 ・吹き出しに書かせることで、大名の感情に近づけさせる。 ・机間指導で分かったことが書いている児童には丸をつける。 ・自力作業の後で、ペアでの作業を入れて、自分の考えの補足を行う。 ・返しの言葉も言うようにする。 ・つなぎの言葉を言いながら発表するように促す。 <p style="text-align: right;">共感的人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者の意図をくみ取り板書する。 	ワークシート

江戸幕府は、どのような目的で、参勤交代などを行ったのでしょうか。

	<p>④大名の気持ちを発表する。</p> <p>C : 大変なお金がかかりました。 T : 手伝い普請は、どんなことでしたか。 C : 江戸城の修理や河川工事などをしていました。 T : 大名は、どんなことを言いたかったでしょうか。 C : 人質を逃がさないためなんてひどい。 C : 参勤交代にはお金がかりすぎる。 C : 家族が心配だから、遠くてもしかたがない。 C : どうして江戸城や河川工事をしなきゃいけないの。</p>	<p>くらい連れて行きました。</p> <p>・付けたしをしながら、大名の気持ちに近づけていく。</p>	
ふ か め る 1 5	<p>⑤政策の目的を考える。 (グループで話し合う)</p> <p>【言語活動】(設定の意図) グループで自分の考えを必ず伝え、考えられなかつたところを補うことを通して、社会的事象から、当時の人の気持ちを想像する力を養う。</p>	<p>T : 徳川家光は、どうしてこのような政策をしたのでしょうか。自分の考えを書いてみましょう。</p> <p>T : 班でまとめましょう。</p> <p>T : 班でまとまった意見を発表してください。</p> <p>C : お金を大名に使わせることで、幕府に反抗する気持ちをおこさせないようにした。</p> <p>C : 外様大名は、信じられないで、お金を使わせて戦ができないようにした。</p> <p>・今まで出てきた政策をもとに、自分の考えをまとめよう。</p> <p>◆技能①(観察・ノート) B基準 徳川家光を中心とする江戸幕府がどのようにして力を強め、確かなものにしたのか必要な情報を参勤交代などの資料から読み取っている。</p>	<p>・グループの中で一番良い考えを見つける。大事な言葉を付け足して、まとめたりする。</p> <p>・お互いの言葉を大事にしながら、まとめていく。 共感的人間関係</p> <p>・発表の際は、同じ内容は割愛して、違う部分を付け足していく。</p>
ま と め る 8	<p>5.まとめを考えて書く。</p> <p>T : まとめを考えましょう。</p> <p>C : 江戸幕府は、参勤交代などの政策で大名にお金を使わせて幕府に反抗できないようにした。</p> <p>6. ふりかえりを書く。</p> <p>T : 今日の学習でどんなことを感じましたか。</p> <p>C : 家光は、頭がいいと思いました。</p>	<p>・書き出しは与え、書きやすいようにする。 意思の決定</p> <p>・発表に対して、お返しをする。</p>	